

## 国立国会図書館関西館 書庫棟が完成しました

－地球環境にも配慮－



令和 2 年 2 月、けいはんな学研都市に立地する国立国会図書館関西館に、約 500 万冊を収蔵可能な「書庫棟」が完成しました。既存の関西館本館と合わせた収蔵能力は約 1,100 万冊となり、東京本館（約 1,200 万冊）と肩を並べる規模になりました。

この書庫棟は、内部の書庫スペースと外部空間との間にバッファゾーンを設けるなどして、空調エネルギーの負荷軽減を図っています。また、雨水再利用設備や太陽光発電設備を導入するなど、地球環境への負荷を軽減する工夫をしています。

書庫棟の取材を希望される場合は、事前に、末尾の連絡先までお問い合わせください。

### ■施設概要

○施設名称	国立国会図書館関西館書庫棟		
○所在地	京都府相楽郡精華町精華台 8 丁目 1-3		
○敷地面積	82,665 m <sup>2</sup> （関西館全体）		
○主要用途	書庫	○収蔵能力	約 500 万冊（1 冊 3 cm 換算）
○構造	地上:鉄骨造	○建築面積	約 4,680 m <sup>2</sup>
	地下:鉄骨鉄筋コンクリート造	○延べ面積	約 25,000 m <sup>2</sup> (書庫部分は約 15,000 m <sup>2</sup> )
○階数	地上 7 階 地下 1 階	○高さ	26.47m
○事業主	国立国会図書館	○発注者	国土交通省近畿地方整備局
○設計者	株式会社日本設計		
○工事監理者	株式会社礎建築事務所	○施工者	五洋建設株式会社 住友電設株式会社 大成設備株式会社
○竣工年月	令和 2 年 2 月		
○総工費	約 141 億円		

## ■背景

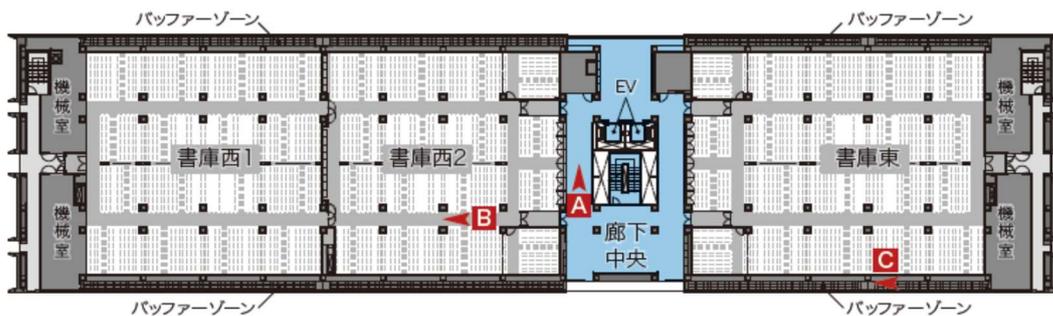
- 国立国会図書館は、納本制度に基づき、日本国内で刊行される出版物を網羅的に収集し、永く保存しています。その蔵書は、国会の図書館として、また唯一の国立の図書館として行う様々なサービスの基礎となっています。
- 収集した資料は、東京本館、関西館、国際子ども図書館の3施設に分散して保存しています。所蔵資料の増加に対応した書庫の確保は、国立国会図書館の重要な課題の一つです。
- 東京本館、関西館ともに、書庫の収蔵能力が限界に近づいていたため、関西館第2期第1段階施設整備事業として、平成28年度から4か年の計画で書庫棟を建設しました。

## ■外観

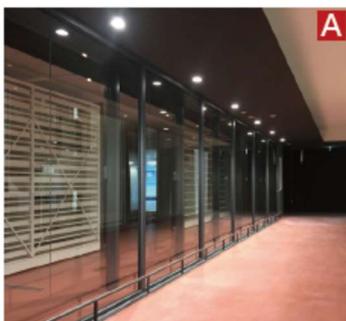
関西館本館より高さを低く抑え、かつ幅を揃えることで従属的な関係として配置しています。東西の側面のデザインは、閉じた本を並べたところをイメージしています。

## ■書庫の特徴

- ① 大切な資料を永く保存するため、資料保存に最適と言われる、温度 22℃ (±2℃) ・湿度 55% (±5%) を目安として、年間を通じて適正な保存環境を保つようにしています。
- ② 書庫には、水を用いるスプリンクラーではなく、不活性ガス（窒素ガス）による消火設備を設置し、消火活動により大切な資料が損傷しないようにしています。
- ③ 書庫内の照明は、人感センサーにより、必要なときのみ点灯します。照明設備には、紫外線を出しにくいLED照明を採用し、大切な資料を保護するとともに、省エネルギーにも配慮しています。
- ④ 書架は、主に手動ハンドル式の集密書架を採用しています。書架の側面は、通気性を良くし、カビなどの発生を抑制するため、穴あきのパンチングパネルを用いています。
- ⑤ バッファゾーンを形成することにより、外気温の書庫に対する影響を抑制しています。また、外断熱工法の採用や安定した地中熱の利用により、空調エネルギーの負荷軽減を図っています。



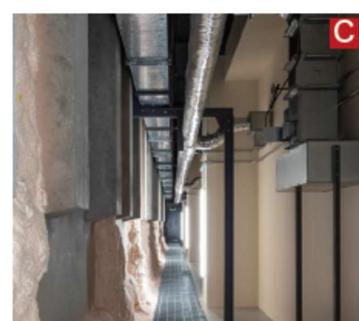
■ 1～6階平面図



■ ガラス壁面越しに見える書庫



■ 手動ハンドル式の集密書架



■ 書庫と外部空間との間のバッファゾーン

本件に関する問合せ先：国立国会図書館 関西館 総務課 Tel：0774-98-1224（直通） Fax：0774-94-9106